

サンマ



生態的特徴等

【生態】

太平洋からオホーツク海の広い範囲を回遊する。春から夏にかけて黒潮域～亜寒帯水域へ北上し、8月以降日本近海を南下する。産卵期は9月～翌6月で、日本沿岸から東方沖合域の広い範囲で産卵する。1歳で約28cmに成長し(図1)、寿命は2年と考えられている。動物プランクトンを餌とする。

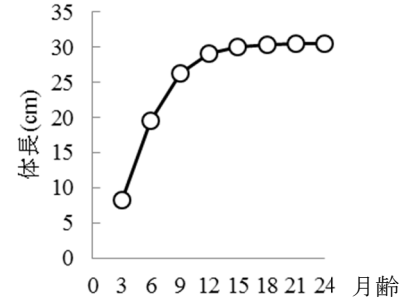


図1 サンマの成長

【漁法と盛期】

主に棒受網、流し網で漁獲される。流し網は7月に解禁され、棒受網は7～8月にかけて小型船から大型船の順に解禁される。

魚群の南下とともに漁船も移動し、10～12月に福島県沖～茨城県沖で棒受網の漁場が形成される。県内では那珂湊漁港や大津漁港に水揚げされる。

【利用】

刺身やなめろう、塩焼き、干物のほか、缶詰原料としても利用される。DHA、EPA、ビタミンDなど健康に良い栄養成分が豊富に含まれている。

資源水準・漁獲量ともに減少傾向

(漁獲量) 全国の棒受網によるサンマ漁獲量は、H12年以降増加傾向であったが、H21年以降は一転して減少傾向となっている(図2)。

県内漁港における漁獲量については、年によって変動があるものの、近年では概ね1,000～3,000トン程度で推移している(図3)。県内の漁獲量の変動は、茨城県沖周辺での漁場形成の有無によるところが大きい。

また、近年は台湾や中国などの外国船による公海上での漁獲量が増加し、日本近海への来遊資源の減少が懸念されている。

(水準と動向) 国の資源評価(H29年)によると、資源水準は「中位」、動向は「減少」とされている。

水準



(国)

動向



(国)

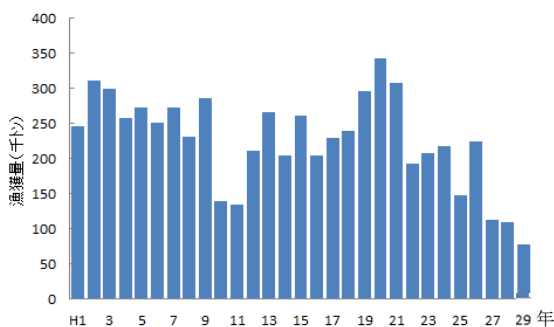


図2 全国サンマ漁獲量の推移

北海道から千葉県沖で操業する棒受網の漁獲量で、全国さんま棒受網漁業協同組合の集計値

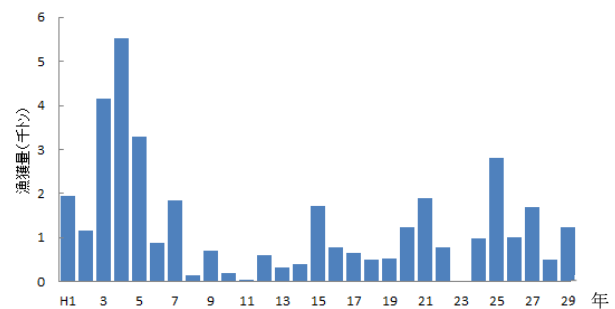


図3 茨城県におけるサンマの漁獲量(棒受網)

全国さんま棒受網漁業協同組合の集計値

【全国の漁獲動向】

- ・北海道が漁獲量第1位。2位は宮城県、3位は岩手県。(H29農統)